

# 平成22年度病害虫発生予察注意報第2号

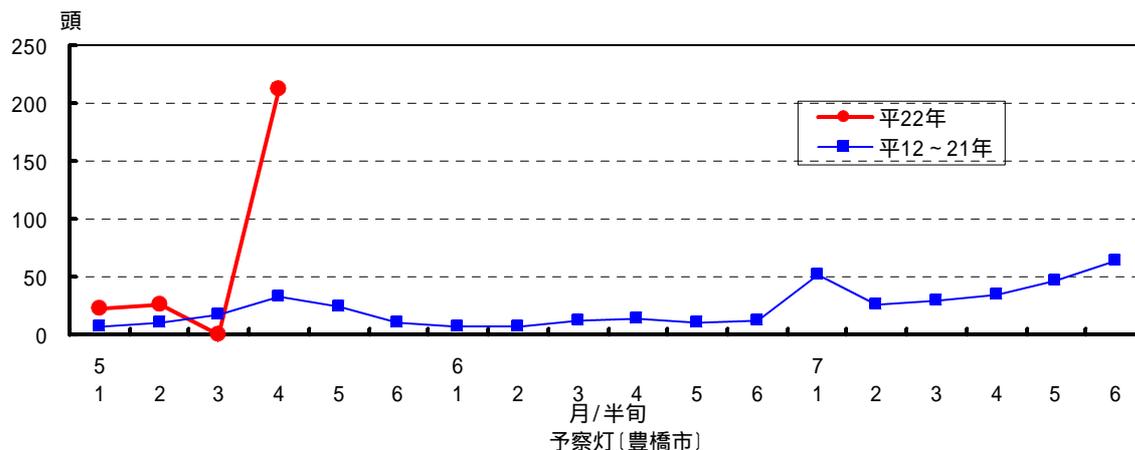
平成22年5月26日  
愛知県

作物名：果樹類（ウメ、モモ、ナシ、ブドウ）

病害虫名：チャバネアオカメムシ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 今年2月に行った、常緑広葉樹林におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫量調査では、1平方メートル当たり4.91頭と過去14年間で最も多く、また、県内15地点を調査したうち、12地点で越冬が確認された。
- (2) 豊橋市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、5月第4半旬に急激に増加し、5月上中旬の総誘殺数は、平年の3.8倍（本年261頭、平年69.3頭）と過去10年間で2番目に多い（下図）。
- (3) 現在、平坦部の果樹園においてチャバネアオカメムシの飛来が確認されてきており、ウメ、モモ、ナシでは被害が散見されている。今後、気温の上昇とともにさらに活動が活発になり、被害の拡大が懸念される。



豊橋市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数

## 4 防除対策

- (1) カメムシ類は、気温が高く風が弱い夜に果樹園に大量飛来するので、ほ場での成虫の飛来を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (3) 越冬成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、次表を参考に残効の長い合成ピレスロイド剤もしくはネオニコチノイド剤を散布する。
- (4) チャバネアオカメムシに果実を吸汁されると、小ウメや幼果期のモモは落果し、大粒種のウメや幼果期以降のモモでは吸汁痕が残る。また、ナシやブドウでは、加害部が陥没し、品質が低下する。そのため、袋がけをする場合は、なるべく早く行う。
- (5) 農薬の散布に当たっては、他の農作物や人畜に害を及ぼさないよう飛散防止に努める。
- (6) 農薬はラベル表示事項を守り使用する。

### カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
ウメ	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
モモ	テルスター水和剤	ピレ	1000倍	収穫14日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	MR・ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ナシ	MR・ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	1500倍	収穫前日まで	5回以内
ブドウ	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド剤、「ピレ」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

#### 5 その他

- (1) ウメ、ナシでは、開花期において低温等の影響により着果数が少なくなっているため、チャバネアオカメムシによる被害が多発すると出荷量の減少が懸念される。
- (2) チャバネアオカメムシの越冬成虫は7月下旬頃まで生存し、カキ園にも大量に飛来することが予想されるため、今後、注意が必要である。

#### 6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ  
電話: 0561-62-0085 (内線471)